

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270902693		
法人名	医療法人社団 寛麗会		
事業所名	グループホームうららか船橋		
所在地	船橋市金杉9-8-22		
自己評価作成日	令和 6年 5月 10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ACOBA
所在地	千葉県我孫子市本町3-4-17
訪問調査日	令和6年6月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・利用者様が安心・安全に暮らせる施設、サービス運営 ・ご家族様への迅速な情報共有と詳細報告 ・ホームに関わる人が居心地のいい環境作り
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>歯科系の医療法人「社団 寛麗会」の運営するグループホームで、歯科医・看護師の訪問診療だけでなく、複数の往診医(内科・精神科)などの手厚い医療支援が整ったグループホームである。「健康は食べることから」を合言葉に口腔ケアや嚥下に対する指導やアドバイスが行われている。また、食事は各人の状況に合わせた調理形体で、毎食厨房での職員手作りの料理が提供される。要介護2から5まで様々なレベルの方が入居しているが、各居室は清潔が保たれ、おしゃれや趣味に配慮され、お元氣なご主人との2ショットの写真等の明るく楽しい雰囲気である。食事の際、出来る方は食事の支度・片付けの役割を持つ等、本来のグループホームの雰囲気を継続している。毎月の会議で利用者全員の状況を職員が話し合っており、一人ひとりに適格なケアの実践が行われている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	事業所様記入 自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は事業所理念に基づいた行動で、日々実践している。	理念はホームページ等に記載するとともに、スタッフルームに掲示し、実践の中で共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染防止の為、中止している。	自治会に加入し職員が清掃活動等には参加しているが、コロナ禍以降は幼稚園との交流などの地域との交流は基本的に中断している。	ホームの前には広い庭があり、植栽などのスペースもあるが、あまり整備されてない。自治会等と呼び掛けるなどして、地域ボランティアの協力を得て、入居者の憩いの場、時には地域住民とも交流出来るコーナーに整備を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の理解や支援方法を地域に向けて活かしていると思われる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を地域の包括支援センター、民選委員、グループホームを交えて開催出来ている。	昨年9月からリアルでの会議を再開している。近くのグループホームと合同で、地域包括支援センターなどの参加を得て、3か月に1度開催している。民生委員や地域の方が参加される時もある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村とは日頃から必要に応じ相談を行っており、普段から協力関係を維持できている。	日常的に地域包括支援センターと協力関係を築いている。生活保護受給者に関しては船橋市生活支援課と連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についてはミーティング時に書面を読み合わせせや意見交換を行い、理解を共有している。また身体拘束虐待防止委員会を令和6年4月より設置し、毎月の委員会を開催している。	委員会は毎月の全体会議時に開催している。狭義での身体拘束が必要な対象者はいないが、指針を作成し職員間で身体拘束しないケアについての理解を深めている。職員研修も年間計画に組み入れている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についてはミーティング時に書面を読み合わせせや意見交換を行い、理解を共有している。また身体拘束虐待防止委員会を令和6年4月より設置し、毎月の委員会を開催している。		

自己	外部	項目	事業所様記入 自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者・ケアマネについては後見人制度について理解している(施設より手続きを2名している)。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結・解除にあたっては十分な説明を行い2人対応で実施している。(1人が説明し1人が補足するといったスタンスで納得いただけるよう努めている)。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映	利用者様やご家族の要望は出来る限り早急に対応するため、外部者に公表することはしていない。運営には反映している。	毎月面会に来られる家族は3分の1程度であり、来訪時に要望を受け止めている。家族とはメールでコミュニケーションを取ることが多い。毎月ホームでの写真を満載した「うららか通信」に、個人別の様子を添えて家族に報告し、関心が途切れないようにしている。	今回の外部評価の家族アンケートへの回答率は50%に留まり、要望やコメントも少なくなっている。長く続いたコロナ禍の影響かもわからないが、引き続き家族とのコミュニケーションの取り方につき検討頂きたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する意見や提案は管理者を通して施設長へ相談する様になっている。	毎月各フロア(1F,2F)会議と両フロア合同での全体会議を開催し意見を換している。人事考課時の個人面談時に、提案や要望につき話し合うこともある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年一度人事考課シートを使用し、本人の状態を自己チェックした後、施設用が取り纏め、点数に応じた昇給制度等、働きやすい環境整備を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人外での研修は業務上必要なものに関しては研修を受講している。それ以外の研修については施設内で実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流については、現在、運営推進会議にて実施している。事業所の問題点や困りごとなどを共有している。		

自己	外部	項目	事業所様記入 自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設をご利用いただく段階で本人とも安心した生活が送れるよう要望を聞き良好な関係を築けるよう努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設をご利用いただく段階で本人とも安心した生活が送れるよう要望を聞き良好な関係を築けるよう努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族と面会時に、必要とする支援や希望を聞き取り、必要な処置を講じている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	認知症の進行を極力抑えるため、できることを中心に活動いただくことで、良い関係を構築できている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の絆を保ちながら、情報提供し協力を出来る限り行っている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設が把握している県警者には本人を含め情報を伝えるよう支援をしている。(手紙のやり取りや電話等)	毎月、利用者ごとに日常生活や様子、受診の記録、本人の写真などを掲載した「うららか通信」を家族に送り、関係性が継続できるよう支援している。家族との面会は居室で行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	被弾からできることを実践してもらうよう、フロアに集めることでコミュニケーションを取りつつ、協力して活動を行ってもらっている。			

自己	外部	項目	事業所様記入 自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時も、その後の経過について電話連絡等を行っている。(他施設に移動された場合)			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向・希望に可能な限り努め、困難な場合においてもミーティング時に利用者様目線の意見を出し合っている。	月一回フロア会議を開催し、利用者全員の状況を話合って本人の思いや意向、変化などの把握に努めている。日常的な利用者との会話の中で何気ない言葉から本人の思いと意向を聞き取り、介護支援ソフトで共有している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時前より情報共有を行い、周知を行っている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日バイタル測定を行い、状態把握に努め、都度生活状況や様子を記録に残している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスにはケアマネージャーも参加し、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画の作成、モニタリングの実施をしている。	月に一度のフロア会議時に全利用者についてのカンファレンスを行い気づきや困っている事を話し合っている。皆の意見から車椅子利用者のトイレ誘導時に手引き歩行で誘導する事をプラン化し、より良いケアの実践に生かした事例がある。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々、記録を残し、申し送りやミーティング時に情報共有し、計画の見直しを行ったり、実践に活かしたりしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	支援については都度、柔軟なサービスの提供に努めている。			

自己	外部	項目	事業所様記入 自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日々、安全で豊かな暮らしを楽しめるよう私選している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設往診医と契約し、毎月2回を基本として緊急時は対応を依頼している。本人らしい生活が送れるよう都度、相談している。	月2回の事業所契約の往診医(内科医・精神科医)と、入所前からの馴染みの医師の定期的な訪問診療もあり、本人と家族の希望に沿っている。週1回、同法人の訪問歯科を受診して、口腔内清掃を実施している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週火曜日に訪問看護師に1週間の様子や状態の変化を報告し、必要な指示を受け、対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時において、情報提供書を医療機関に提出し、担当者との情報共有を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期においてはご家族を交え、主治医・看護師と話し合いを行い、その後の対応方法や家族の希望を可能な限り尊重し対応を行っている。	利用者本人と家族がホームでの看取りを希望し医療的行為が不要な場合、家族や医師と話し合っており対応している。最近、長年当ホームで生活していた利用者の看取りを家族と共に行った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急搬送においては、大半の職員が必要な初期対応を行うことが出来ており、対応方法はミーティングを通じて情報共有を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策においては、防災担当職員より指導が行われており、避難方法等を周知している。地域との協力体制は現在は行っていない。	6月と10月に消防署の指導による避難訓練と消火訓練を行った。BCPIは感染症編は完成しており、自然災害編、特に地震と火災の対策を作成中である。緊急時の連絡先と緊急処置バッグが設置され、衛生品の備蓄があり、ウォーターサーバーに飲料水が設置されている。	当ホームは食材宅配会社から3日毎に配送される食材を調理しているため、米以外の食品の備蓄がほとんどない状態である。今後、非常時用品の備蓄と確認の仕組み作りの検討をお願いしたい。

自己	外部	項目	事業所様記入 自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の人格を否定しない対応を普段から行っており、個人の尊重にも敬意を払って対応している。	利用者をあだ名で呼ぶこと、スピーチロックをしない、大きな声を出さない等留意している。認知症故に対応に困る時にも、介護職員として一度考えてから声掛けをするように職員間で注意しあっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人より申し出等希望があった場合は、ご家族と相談し可能な限り対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合を優先することなく、基本的に本人ペースに任せている。希望がある場合は、都度相談に応じている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみやおしゃれは都度支援を行っている。出来ない場合は職員が実施している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事・片付けができる利用者様は職員と共に行い、出来ない方のみ職員が対応している。普段からお手伝いを行っている。	食材宅配業者から3日分の食材が配達され、毎食職員が手作りしている。野菜の皮むきや、テーブル拭きを行う利用者もいる。利用者が日々の自分の役割になっている盆拭きや皿拭きしている姿が見られた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養摂取はバランスが取れる食事を毎回調理師提供している。水分量についてもその日の状況で、不足している際には追加して工夫したりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内清掃も自立や介助が必要な方も声掛けをし、食後毎回実施している。		

自己	外部	項目	事業所様記入 自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	可能かぎりトイレにて排泄できるよう、車椅子の方も定時でトイレ誘導を行っている。	バイタル表に排泄状況を記入しており、その状態と本人の体質に合わせた飲み物や薬剤を用い排便コントロールを行っている。トイレ誘導が必要な方は食後及び日中は3時間を目安に声掛けを行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘症解消に向けて都度往診医に確認し、身体に無理なく排泄できよう努めている。また、ヨーグルトや牛乳の提供で排泄の促進を実施。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は2、3日に一度のペースを基本としており、入浴時間はその日のレク等の状況で決めているため、必ずしも希望に添えるものとなっていない。	入浴日を曜日で決めず、その日の状況で全員が週2回入れるようにしている(入浴カウント表活用)。車椅子利用者で介護度が高く入浴時のリスクがある方には、シャワー浴で対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入眠についても基本的に自立出来ている方はお任せし、介助を必要とする方のみ食後の時間をみて、居室へ誘導し臥床介助を行っている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報は各職員が理解できるよう情報共有し、症状に変化があった時は周知及び記録を行っている。(訪問薬剤師からの助言等もあり、理解が進んでいる)			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日、気分転換ができるよう利用者様が楽しめることを職員が提案し、実行している。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気分転換の為にベランダや駐車場での外気浴を行う。天候をみながら近隣の散歩などの援助を実施している、	コロナ禍が落ち着いた4月頃から少人数で施設周囲を散歩し職員と買い物に出かける時もある。今年は道路の向かいにある幼稚園に桜を見に歩いて出かけることも出来た。		

自己	外部	項目	事業所様記入 自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>ご家族と相談し、希望があればご本人が安心できるよう、今まで使用していたお財布に現金を所持していただいている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>ご本人から希望があれば電話をしていただいたり、手紙を書いていただけるよう支援している。</p>		
52	(19)	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共有空間は、全て安全を第一に、混乱や不快を招くような刺激がないよう職員が都度環境に応じた対応を行っている。</p>	<p>リビングに隣接して台所の対面式カウンターがあり、調理している時の音や香りが漂い、家庭的な雰囲気を感じることが出来る。洗面台、トイレ、浴室等が分かりやすい配置になっていて、安心安全に過ごせる空間になっている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>共有空間は、自由に過ごせるようお任せしており、マイペースで過ごされている。</p>		
54	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時に住み慣れた環境で使用されていたものを居室に運び、どのような環境にするかご本人とご家族の意見で対応している。</p>	<p>居室の入口が広く、家具の配置が動線と安全性を考慮して配置されている。各々の部屋がそれぞれ個性的でレクリレーションの道具や作品、仏壇や師範免許、家族の写真等が置かれ、本人が落ち着いて過ごせる工夫がされている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>入居時より本人のできることを観察し、安全な環境の中で自立した生活を送ることができるよう、都度工夫している。</p>		